

父

若色茜

「今夜、月下美人が咲くから見においで」
夕方 父から連絡が来た
当時 中学生だった私は
月下美人が嫌いだった
咲く前から
注目してほしいと言わんばかりに
濃密で甘美な香りを漂わせ
暗闇でも浮かび上がる
純白の花びらを ふっくらと
幾重にも身にまとった姿は
まるで 自分の美しさを
充分 知っているかのようで
どうしても好きになれなかった
それなのに 父を想う時
鮮明に浮かぶ映像は
静まり返った父の職場で
蕾がほどけていくのを
一緒に観た あの時間なのだ
今夜も蒸して暑い
確か あの日も こんな夜だった